

棋士 石井邦生 九段



本日は、1941年福岡県生まれ、1956年初段に入段(プロ入り)、日本棋院関西総本部の最長老、公式戦1,000勝達成、井山裕太元七冠の師匠でもある石井邦生九段に大阪弁護士会館にお越しいただきました。石井九段には、私ども大阪弁護士会会員に対して、長年にわたり、囲碁の指導、会内囲碁大会の講評をしていただくなど大変お世話になっております。

棋士としての足跡

— 石井先生は、碁を始めたのは何歳ぐらいからですか。

小学校2年生ぐらいからです。醤油杜氏の父がものすごく碁が好きで、近所の人がうちに碁を打ちに来ますので、それを見ているうちに覚えました。当時は、遊びといえば碁や将棋ぐらいしかなかったですから。

— 東京の石井衛九段がお兄さんですね。

はい。兄はもう引退しました。

— 入門された細川千仞九段とは何局か打たれましたか。

私は細川先生とは2局打っていただきました。我々の世界では、師弟の契りを結んだら1局だけ打つという慣習がありますが、私が五段になったときにもご褒美に打っていただきました。

OPINION
オピニオン・スライス
SLICE

インタビュー日
令和2年1月14日(火)

—— 石井先生は、名人戦リーグ、本因坊リーグにも参加し、活躍されました。

最初、藤沢秀行九段に勝たせてもらって本因坊リーグに入ったのが多分30歳ぐらいです。その当時はそんなに若い人が活躍できる時代ではなかったですから、中には林海峰さんとか大竹英雄さん、石田芳夫さんとか20代で活躍する棋士もいるにはいましたが少数でした。30歳ぐらいでリーグに入れたら当時としてはまあまあ立派なものだった、そういう時代でした。

—— 1973(昭和48)年と1974(昭和49)年に本因坊リーグに、1982(昭和57)年と1990(平成2)年に名人戦リーグに入っていましたね。

国際棋戦で世界最強棋士を倒す

—— 1978(昭和53)年に九段昇段、2016(平成28)年に74歳で公式戦1,000勝達成、その中で一番印象に残るのはどんな碁でしょうか。

やはり2001年世界選手権富士通杯で世界最強の李昌鎬（イ・チャンホ）さんに勝った碁です。当時、李昌鎬さんが25歳というまさに打ち盛り、私は59歳でそろそろ老境の域に入ろうかというときです。普通の世界ではなく、碁の世界だからこういうことがあるのでしょうね。私は、ただ、みっともない碁は打ちたくないということで、とにかく盤面に集中して、あんなに一生懸命碁を打ったのは人生最高の初めての経験でした。終わった瞬間、私、

勝ったということが分からなかったんです。ちょうどそのときそばで見ていた小林光一九段に「石井さん、李昌鎬さんが投了したよ」と言ってもらって初めて勝ったことが分かったぐらい盤面に集中していました。あのときは神様が乗り移ったみたいな感じで、日本の芸が韓国の実戦的な碁に勝ったという感じがしてならないです。まさに奇跡的な勝利でした。

囲碁界の名伯楽 井山七冠の師匠として

—— 石井先生は、30年間、プロを目指す後輩を棋院で指導する院生師範をされました。

はい。20歳から50歳までです。

—— 数多くのトップ棋士を養成されたことは偉大な功績ですが、石井先生は師匠として井山七冠を育てられた名伯楽として有名です。

今から24～25年前に読売テレビ「ミニ碁一番勝負」という早朝番組で、私と宮本直毅九段が交互に解説をしていました。ある日、番組プロデューサーから、「6歳の子で、おじいさんに碁を習ってたった1年で三段になった、そういう天才坊やが出てくるよ」と言われました。

その子が登場して、大の大人を相手にそれこそ電光石火の早打ちでした。子どもは早打ちなんですけど、見たことないような早打ちでした。ところが、難しい局面になるとびたっと手がとまって小考する。そのリズムのよさが見事だったので、囲碁の申し子みたいな子だなと思いました。そして、勝抜き戦で5人に勝

ち、チャンピオンになりました。

—— 井山少年が石井先生の弟子になったのはどんな経緯でしたか。

私は当時50歳を過ぎていて、今まで一生懸命タイトルを追いかけてきたけれども、とうとうタイトルとは縁がなくて、これからは安気に暮らせる、弟子をとるなんてまっぴらごめんやと思っていました。けれども、おじいさんが私どもの本部や囲碁クラブにその子をよく連れてくるようになったんです。同じ福岡の出身のおじいさんと意気投合し、その子と打っているうちに情が移ってきて、忸度して自分のほうから「弟子にしましょうか」と言い出したんです。

—— 井山さんは小学校1年ぐらいですか。

小学校2年の春でした。弟子にしてから、少年少女の大会で2年生のときに優勝して、3年生のときも連続優勝しました。

先駆的な指導

—— 先生が井山さんを指導された方法が非常に先駆的なものだったと思いますが、どういうふうに指導されたのでしょうか。

まず、内弟子にしようかと思ったのですが、それは諦めて通い弟子にしました。できるだけたくさん打ってやろう、それが上達の一番の近道と思いました。ところが、私の家は宝塚の山奥で、井山は東大阪市の生駒山のふもとに住んでいた。片道2時間ぐらいかかるんです。まだ小学校2年生の子を通わせるのは無理だと思っていたところ、大阪で碁ネットという会社がテ

レビで碁が打てるという宣伝をしていました。それを思い出して、これで教えてやろうと。結果的には、これが物すごくよかったんです。

というのは、テレビで打つということは、井山にすれば、テレビと遊んでいるような感じなので、師匠の顔色をうかがわず、伸び伸びと打てるわけです。今、井山の碁は、「自分の打ちたい手を打つ」ことを信条にしています。テレビで打った碁が今の碁に生かされていると思っています。

—— 1,000局を超える井山少年の指導をどのように打たれましたか。

入段するまで、3分の2がネット対局です。大阪で待ち合わせをして打ったのも3分の1あります。院生になってから、互先で打ち出しました。そしたら、最初からいい勝負なんです。3か月ぐらいしたら私のほうが勝てなくなって、3局打って私が井山に1勝2敗ぐらいのペースなんです。今考えたらめっちゃめっちゃ強かったですね。

—— 井山さんは、石井先生に打った碁の棋譜を送ってこられたんですね。

はい。院生になってからは研修で土日打てなくなったので、棋譜を書いて送らせました。送ってきた碁を私が並べて講評して送り返しました。

—— 石井先生にはいつも弁護士会の碁の講評をお願いし、非常に助かっています。

手紙のやり取りでは、反省点なども一生懸命考えて送ってくるので、自分で考える習慣がつき、これが非常に良かったです。



新世代の台頭とAI

—— 令和になり、新しい世代が台頭してきています。19歳11か月で史上初の10代名人になった芝野虎丸名人や一力遼八段(22歳)や許家元前碁聖(22歳)、こういう20代前半の方がこれから活躍されて、井山さんとの対決も非常に興味深いです。

今の世代が活躍できるのは、1つは、情報化時代で、今は世界の碁を瞬時に見ることができるわけです。もう1つは、トレーニング方法がものすごく進歩しています。

社会現象になっていますが、碁の世界は特にAIの影響が大きいです。私らの時代は師匠や先輩にいろいろ教わって、うそばかり教えてもらってきました。

—— 人工知能AIが出てきたのは2016年ぐらいだったと思います。それから2~3年の間にAIが非常に強くなりましたね。

私は井山の碁からある程度AIの情報を仕入れているような感じがします。AIが出てきても囲碁界の勢力分野は余り変わっていないような気がして、そういう意味では、AIだけを研究していても強くなれない



い。AIがなぜそういう考え方をしているかということを中心に自分自身が研究して、自分自身で消化していくことだと思います。

囲碁人口を増やすには

—— 我が国の囲碁人口が最近非常に減っています。我々弁護士会でも、40代、50代で囲碁をたしなむ層が非常に減っており、これをいかに活性化するかということが我々囲碁仲間の課題でして、現在対策を考えているところですが、やはり囲碁のおもしろみをどう広めていくかということでしょうね。

囲碁というのはおもしろくなるまで結構時間をとられます。手っ取り早いパソコンゲームなどをやる人が多くなっていますので、この辺が非常に問題かなと思っています。ただ、囲碁というのは年齢に関係なく、今、最年少の仲邑菫初段（10歳）と最年長の杉内寿子八段（92歳）、もし2人の対戦が実

現するようなことがあったらどっちが勝つか分からない、年齢を超えて勝負できる素晴らしい世界なんです。また、体力差に左右されるスポーツと異なり、囲碁は男女が対等に戦える世界です。女性の活躍でマスコミからも注目を浴びてブームになり、碁が盛んになるのではないかと思います。

—— 仲邑菫さんとか上野愛咲美さん、藤沢里菜さん、そういう人たちの活躍がこれから世間をにぎわせてくと非常に希望が持てますね。

そうですね。

—— 弁護士会でも囲碁を楽しむ女性をいかに増やすかということを考えています。

やっぱり女性が入ってくると華やかになって盛んになります。大学の囲碁部でもそういう傾向があります。また、教科として取り入れている大学が増えつつあって、東大、京大、早稲田、慶応という有名校が単位の取れる教科として取り入れてきていますね。

弁護士の印象

—— 先生は弁護士にどのような印象をお持ちでしょうか。

弁護士の先生というのはエリートの職業ですから優秀な方が多いし、話をしても楽しいし、先生からよくお手紙をいただきますが、やっぱり文章力がすごいなと思います。それから、碁の強い方が多いですね。弁護士の先生方には何かあったときに助けてもらえるから心強い存在です。尊敬しています。

囲碁上達法

—— 囲碁はどうやったら強くなるか、どういう点を心がければよいですか。

それは私たちも一番の課題です。単に覚えるのではなく、どうしてこういう手を打つのだろうかと、それを自分なりに考えて研究することが大事だろうと思います。単に丸暗記しても強くなれるものではないです。アマチュアの方でしたら、プロの碁を並べて形を覚える、詰め碁で読む訓練をする、実戦で力をつけていく、その3本立てです。私たちもそのようにしています。

—— プロの碁の並べ方ですが、棋譜を並べる場合のお勧めとか心構えがあれば教えていただけたらと思います。

まず、一番楽しい並べ方をするのが大事です。速く並べて楽しければそのリズムが合っていますし、じっくり並べて、何でこういう手を打ったのかなとか、間違っていないからそういうことを考えることはとても大事なことです。私はじっくりと考えて並べるほうです。

—— 先生は、現在、日本棋院の関西総本部では最長老ですが、体力を温存されてこれからも現役としてますますご活躍していただきたいと思いますし、我々のためにも今後ますますのご指導をよろしくお願いいたします。

（インタビュー：赤 沢 敬 之
岡 本 岳
吉 岡 稔 浩
写 真 撮 影：高 広 信 之